

徳川家康の刀剣(越前康継)の初公開展示

◆アピールポイント	・静岡市歴史博物館では家康に関わる資料を収集しており、本年度、駿府で作られた家康遺品（駿府御分物）の刀剣を新たに収集（購入）しました。 ・この貴重な刀剣を、歴史博物館開館2周年に合わせて公開します。
◆期 間	令和7年1月7日(火)～2月2日(日) ※休館日(1/14(火),20(月),27(月))を除く9時～18時（展示室入場は閉館30分前まで） ◆1月13日（月祝）、25日（土）に限り、19時まで開館延長
◆場 所	静岡市歴史博物館 2階基本展示室内 （葵区追手町4番16号）
◆内容など	◆初公開資料「刀 なんばんてつをもつてすんしゅうにおいてえちぜんやすつく 以南 蛭鉄 於 駿州 越前 康継」 【概要】 ・越前康継（初代）は、家康に仕えて徳川将軍家お抱えの刀工となり、「康」の字を与えられました。この刀剣は越前康継が、家康が住んでいた駿河（駿府）で、南蛭鉄を用いて打った刀剣であることが、その銘からわかります。 ・家康の死後、その子どもたちに分け与えた遺品（すんぷおわけもの駿府御分物）であり、駿府城主ついで紀州徳川家当主となった家康の十男、よりのぶ徳川頼宣が所持した刃長およそ二尺六寸(81.4cm)の長い刀剣です。 ・静岡市では徳川家康に関わる資料を収集してきましたが、この刀剣はそのなかでも目玉といえる重要な資料です。 ・かつての駿府城三ノ丸に立地する「歴史博物館」。約400年ぶりに駿府城に戻ってきた家康の刀剣をぜひご覧ください。
◆その他	【基本展示観覧料】 ・一般：600円、高校・大学生、市内居住の70歳以上：420円、小中学生：150円（但し、市内居住・通学の小中学生は無料） ・1月13日（月祝）は、グランドオープン2周年記念で観覧料無料

別紙資料 ☒ 有

イベントカレンダーへの掲載 ☒ 有

ぜひ取材をお願いします

【展示に関する問合せ】

静岡市歴史博物館学芸課

担当：廣田、宮崎

電話：054-204-1005

【広報に関する問合せ】

歴史文化課(静岡庁舎新館16階)

担当：川口・國島

電話：054-221-1569

(別紙) 資料概要【刀 以南蛮鉄於駿州越前康継】

なんばんてつをもってすんしゅうにおいてえちぜんやすつぐ



(写真) 刀 以南蛮鉄於駿州越前康継 撮影：(有) 藤代 冥賀明子

* 撮影者名掲載必須

● 駿府御分物

(御三家に形見分けされた家康の遺品)

徳川家康は元和2年(1616)に駿府城で亡くなりました。駿府城に保管されていた大量の家康の遺品は、家康の九男義直(尾張)、十男頼宣(駿府、のち紀州)、十一男頼房(水戸)に分けられました。徳川御三家に分配された家康の遺品を「駿府御分物」といいます。

本刀は駿府御分物の一つで、頼宣が所持していたものと伝来されています。

● 刀工 越前康継(初代)

康継は、越前国に住し、徳川家康の次男・結城秀康に召し抱えられたと伝わります。慶長10～11年(1605～06)頃に家康および將軍秀忠に召されて江戸に上り、鍛刀の功により「康」の一字を拝領し「康継」と改名しました。以降、徳川將軍家の御用鍛冶となり江戸と越前を往来して鍛刀しました。

● 本作の特徴

対外交易でもたらされた「南蛮鉄」=洋鋼を用いて駿河において制作したことが銘文から明らか点は特筆すべき特徴です。作風などから、康継と改名後、江戸と越前を往来する途次に家康が居住する駿府に立ち寄り鍛刀したものと推測され、制作年代は慶長年間後期から家康が死去する元和2年(1616)頃までの間と考えられます。

力強く洗練された姿は、康継の作品中でも特に優れた出来映えです。また、研ぎ減りが殆どなく、作られた当時の状態をよく保っている点も高く評価されます。

駿府在城時の大御所家康の姿を現在に伝える大変貴重な資料です。

静岡市歴史博物館グランドオープン 2 周年！

1/13(祝)は観覧料無料

1/11(土)～13(祝)期間中展示室観覧者、各日先着 300 人に博物館オリジナルノベルティ・葵船割引券プレゼント

※その他の 2 周年記念イベントは歴史博物館 HP をご確認ください。

